

保健所運営災害対応ゲーム「KIZUKI」

上益城地域は、平成28年熊本地震において甚大な被害を経験した地域です。

その経験を踏まえ、御船保健所では限られた人員、限られた資源で、効率よく初動対応を行うことができるよう「災害時アクションカード」を作成しています。

保健所職員が実際に災害が発生した場合の具体的な対応を考えることができるよう、NPO法人高齢者住まいいる研究会と御船保健所が共同で、「災害時アクションカード」と連動した「保健所運営災害対応ゲーム」を作成しました。

【ゲームの内容】 ★2つの使用方法があります。

- ①対戦形式：
 - ・3～5人グループを作り対戦形式でゲームを実施します。
 - ・相手が読み上げるカードの内容に対応するかしないか判断します。
 - ・対応しない場合は手持ちのポイントが減っていくルールです。
 - ・最終的にポイントが高いチームが勝ちです。
- ②集合研修：
 - ・グループで、カードの内容に関する具体的な対応を検討します。
 - ・検討した対応策を図面やホワイトボードに記入します。

保健所運営災害対応ゲームの様子 (R6.10.1)



★参加者の感想★

- 保健所における災害対応のイメージができ、具体的な対応を考える機会となった。
- 災害対応を経験したことがない職員もゲームを通してイメージができる。
- 災害の備えとして、「気づく」ことが大切であり、このゲームもそのきっかけとなる。（例：物品の設置場所、発電機の切替方法等）
- 相談内容によって対応の優先度を判断していくことも必要。
- 実際には保健所に様々な相談が寄せられるため、保健所の状況を想定したカードを追加すると良い。支援者の対応も必要になる。

★講師（NPO法人高齢者住まいいる研究会の寺西）からの助言★

- 対応について、それぞれ判断基準が異なることに気が付いたのではないか。
- 職員全体で合意形成を図り保健所としての判断を築く（きずく）。

(作成者)

◆NPO法人 高齢者住まいいる研究会
◆熊本県御船保健所